

自然環境に恵まれた大学に通う大学生の環境に対する態度とその形成要因となった体験についての研究

吉安 正樹 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 林 綾子

キーワード: 自然環境 大学生 大学生活 環境に対する態度 体験

1. 序論

B大学では全学生が必修単位として、環境教育的要素と冒険教育的要素を含んだ野外スポーツ3大実習を履修している。このようなカリキュラムを取り入れ、恵まれた自然環境に通う大学生は、大学生活での体験を通じて環境に対してより望ましい態度が育成されているのではないかと考えた。自然との共存を目指す大学での学生達の学びを明らかにすることで、今後のより効果的な学生指導への一助となるのではないかと期待される。そこで本研究では、自然環境に恵まれた大学に通う大学生の環境に対する態度と、入学してからこれまでの大学生活の中で、どのような体験が環境に対する態度形成の要因となったか、またそこから得られた学習について明らかにすることを目的とする。

2. 研究方法

【調査対象】

自然環境に恵まれたB大学に通う大学生を対象とし、入学後の大学生活での体験から環境への意識の変化があったと答えた30名に対して意図的に調査を行った。

【調査用紙】

- 1) 自然環境への意識に関するアンケート調査(記述): 筆者が独自に作成した、体験、感情、学習、行動の順で問うアンケート用紙を使用し、1人につき3つの体験を挙げてもらった。
- 2) 自然環境への意識に関するアンケート調査(選択): アメリカの野外教育研究で用いられた「環境に対する態度」調査用紙を、岡村(2001)が翻訳したものを筆者が独自に編集し使用した。

3. 結果と考察

①環境に対する態度: 認知-感情間、認知-行動間に有意な差がみられ、感情得点と行動得点に比べ認知得点は低かったことが分かった。また、男女別でt検定を行った結果、男子に比べ女子の方が高かった($t(28) = -2.19, p < .05$)。家事などをする機会の多い女子の方が高くなったのではないかと考えられる。

②環境に対する態度形成の要因となった体験: 「フレッシュマンキャンプ」「部活動」「水辺実習」「雪上実習」が挙げられ、普段の生活環境とは違い、非日常的生活環境での体験や部活動での清掃活動が、B大学の大学生に大きな印象を与えたのではないかと考えられる。

③体験から得られた学習: 「自然の魅力」「自然に対する興味」「環境問題の理解」「環境保全意識」「日常生活の見直し」「日常生活の便利さの気づき」が挙げられ、それぞれの関係性を図1にまとめた。それぞれの体験から、多くの学生が環境に対する態度形成に必要なものを学習したのではないかと考えられる。

4. まとめ

B大学に通う大学生の環境に対する態度は、直接的な体験から自然環境について理解し、身近でできる環境に配慮した行動をとっていることが明らかとなった。

【引用文献】

- 1) 岡村泰斗 (2001): 「環境教育の学び」の評価方法に関する文献研究 社団法人日本キャンプ協会 キャンプ研究 第4巻 第2号 19-27

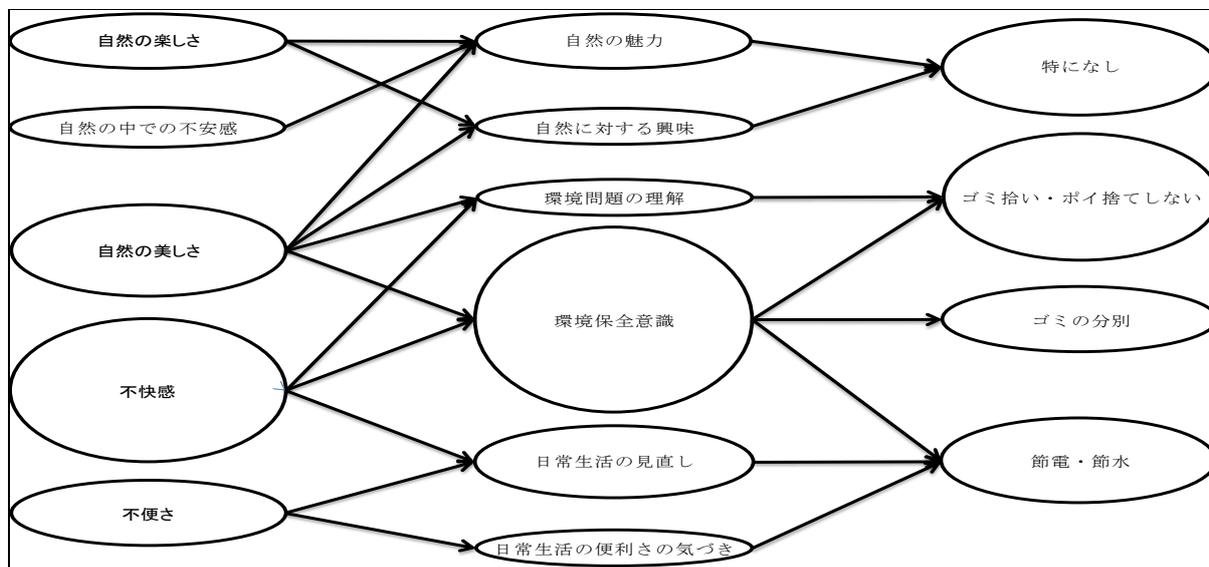


図1 感情・学習・行動の関係性